

SSKO

No. 15

東腎協

東京都腎臓病患者連絡協議会

事務局 東京都

〒161・電話・

郵便振替口座・

加入者名・東腎協



元・鶴丸和彦

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可
 SSKO通巻第八十五号(毎週二回、曜日・金曜日発行)
 昭和五十一年十二月三十一日発行

会員の皆様、あけましておめでとうございます。

私も透析を始めてから、五回目の正月を迎えることになりました。初めて迎える正月と比べると、何か感激も薄くなつてゆくのが感じます。人間というものは惰性に流されやすいものだと思うしだいです。

さて、東腎協の活動に参加してからも今年で五年が過ぎました。そこで、また初心に帰つてこれからの活動を考えってみました。

その中心を「早期発見、早期治療」ということにしぼってみました。

私が自分の腎臓が悪いと分かつてから透析に入るまでに、五カ月とかかりませんでした。その時の驚き、嘆き、悔しさ今でも思い出します。

「何でもっと早く発見できなかったのか」、「何でもっと早く発見できなかったのか」、「何でもっと早く発見できなかったのか」

つたのか」、いくら悔いても限りがありませんでした。そして、こんな苦しみは他の人には味わってもらいたくない。そんな気持ちで東腎協の活動に参加していたのでした。

それから五年間、いろいろな活動をしてきました。もちろん「早期発見、早期治療」についても活動してきました。その結果、三才児検尿の実施や小・中学生の検尿等一定の進歩はありましたが、私のごく身近な職場では、まだこれといった変化は現われてきませんでした。

私の職場では、原則として検尿は三十才以上となっております。

これではいかんと思ひ、組合の大会などの都度、「全員検尿」の大切さを訴えてきましたが、理解はしてくれませんが、実際の活動面でなかなか現実化しないのです。

そして昨年、私の主治医のもとに一人

の青年がかつぎ込まれました。目が見えなくなり腎臓が悪いと分かつたことでした。二十五才、そして同じ勤め先でした。だいたい発見したときのデータも私の時と似たりよつたりのようです。

幸い良き処置を得て、今では目もみえ職場に復帰しましたが、もう少しデータが悪くなれば、間違いなく透析のお世話になることとなります。

そこで私が感じたことは、「何でもっと早く発見できなかったのか」、「早く全員検尿をしていたら」ということでした。

五年間でたいした進歩はありませんでしたが、何人かの理解者が増えたのも事実です。

今年も新年に当たつて、また職場で何人かの理解者を増やし、「全員検尿」を実現するように地道な活動をしていこうと思つております。

美濃部都知事から 新年のメッセージ



東京都知事・美濃部亮吉氏

新しい年を迎えて、みなさまに心から年頭の御挨拶をお送りいたします。年々交す新春の挨拶ではありませんが、新しい年の扉を押しあけて、今年はこのほか緊張と決意に身が引きしまります。それは、今日、私たちの時代が明らかに歴史の曲り角を歩んでいるからです。おりしも低成長経済が進行していく中で、国際政治の無台では、新指導者の選出、新しい政治理念や政権の誕生など、体制や国の貧富を越えて、文字通り新たな胎動がほうはいと脈打っております。昨年のもまた激動の一年でありました。あからさまな金権腐敗の実態が暴

露される中で行われた総選挙は、同時に戦後三十年にわたる政治の総決算を迫る選択でもありました。ドラマチックな政治地図を描いたこの審判によって、今年の政局は一段と流動化を増し、あつい政治の季節へ突入するに違いありません。さまざま政治潮流が競い合う中で、どれが最も国民の生活と幸せを守るのか、私たちの政治への監視は、いよいよ切実な重みを加えてくるのであります。

私も知事就任以来、早くも十年の歳月を数えます。東京に平和と民主主義を築くことは日本の政治変革につながる、私はその信念の下に一貫して都民のための都政へと努力してきました。新たな年のスタートに当り、依然苦境にある都政であります。都民のみなさまと共に、ますます力をこめてこの初心の完遂をめざす決意であります。本年も変らぬ御支援を心からお願いたします。

みなさまの東賢協は、年々着実に前進しております。この一年も、これまでにましてすぐれた御活躍をされ、御健康であることをお祈りいたします。

年頭の辞

東腎協会長

宝生 和男

昭和五十二年の年頭にあたり会員の皆
さまに謹んで御祝詞申し上げます。

東腎協もここに結成以来五年目を迎え
多くの成果を得て来ましたが、長びく不
況下にあつて福祉後退の烽火（ほうか）
は各方面から上つて来て東腎協の真価を
問われる年明けとなりました。

国鉄運賃を始めとする一連の公共料金
の値上げ、加えて生活物質の高騰によつ
て私達の身辺は一そうの危機にさらされ
ています。

この難局を乗り切るには、新しい信念
を持つて進まねばなりません。

会員の皆様共々がんばつて行きたいと
思います。



新春随想

無駄言

東腎協顧問

小川 忠光

明けましておめでとうございます。

東腎協会員の皆様は透析をつづけなが
ら一生懸命に頑張つておられることと存
じます。私も今年春を迎えて、透析を始
めて七年になります。顧ますに透析を始
めた頃は生れたばかりの赤ちゃんのよう
に何もわからないで、胸に水がたまって
血をはいたり、眼が少しみえなくなつた
り、カリが高くなつて死の一步手前まで
きたことなど危険なこともありました。
こんなことを繰り返しながら会員の皆
様からの色々な経験談を聞いては自制し
つつ生きながらえてきましたが、もう七
年になり透析患者では小学生になつてし
まいました。この頃は週二回の透析では

ありますが、体調も大変よく全く通常人
と変らないような生活を楽しんでおりま
す。

今度、東腎協の事務局から何か原稿を
書けと求められましたので思いつくまま
に筆を走らせ責を果したいと存じます。

先ず、私達は生きる意欲を燃やさなけ
ればなりません。人の生き方には色々あ
つてそれが是でどんなことが非だとい
うことはないでしょう。

生活の中では私達は何々が欲しいとい
う意欲があつて初めて物が得られるよう
に、総ての生活行動は意欲することによ
つて始まります。何んとしても意欲する
ことが第一です。お互いに生きることが
意識し情熱を燃やして生きつづけるよう
努めましょう。

第二に、食事療法の重要なことは申す
までもありませんが、食物については意
欲とは逆に食欲にかられて大食をしない
ようにしましょう。聞くところによると
人体の各機関は年令と共に老化する。頭
脳は六十才を過ぎる頃は二十％も減るそ
うですが胃腸だけはそれほど老化しない
に従つて年をとつて胃腸の要求に応じて

食べるとだんだん太ってくるのだそうで、
太るのは食物と体の機能がマッチしてい
ない証拠でよくないといわれています。

私達透析患者は透析にマッチするよう
に食物を料理し工夫して食べるようにし
胃腸の欲するままに口にせず今年こそ食
物についてミスのないように決意しまし
よう。

第三に、同病相あわれむという言葉が
あるように、私達同病患者が互に手をと
り合つて生きながらえようというのが東
腎協の運動の原点であると思います。

惟(おも)うに私達農耕民族はこうい
う自分を守るといふ市民運動はどうも下
手のようです。それはやっぱり自分を守
るといふ意欲が足りないからです。私達
日本人の精神構造は遊牧民族と相当ひら
きがある。遊牧民族は羊をだいてグルー
プが外敵から自分等を守りつつ生活する
ので防衛本能が発達しており、団体行動
が身につけている。他方、吾々農耕民族
は天からの恵みによつて生活が左右され
るので天を仰いで上からの恵みを希んで
いる。自分の努力はともかく他人からの
貰いものをあてにする傾向が多すぎる。

また、自分さえよければよいという考え
方も強いようです。

吾々農耕民族は自分一人が朝早く露を
ふんで耕し月をいただいて帰るようにす
れば、それだけの利益が得られるという
事実からでしょう。遊牧民族は自分一人
で外敵と当ることも出来ないし、グルー
プが団結して守らねばならぬ必然性があ
る。即ち一人で朝早く獲物をとりに出で
てもそう簡単にはとれないし、夜遅くまで
やると危険こそあつても獲物はとれない
ということからくるのでしょう。

私達東腎協の運動も同様、会員一人ひ
とりが自分を守る方法は東腎協を通じて
経験交流を行い、団体行動によつてより
よい条件を獲得するよう心がけるべきだ
と思います。即ち東腎協の発展が私達の
幸福につながるものと確信して、今年こ
そ一層前進の為に頑張りました。

☆★☆☆☆ 年賀状

ありがとう

次の団体、個人の方がたから年賀状を

いただきました。誌上を借りてお礼申し
上げます。(1月4日まで到着分)

岩手腎臓病の会、福島県腎臓病患者連
絡協議会、群馬県腎臓病患者友の会、石
川県腎友会、富山県腎友会、神奈川県腎
臓病患者連絡協議会、埼玉県腎臓病患者
友の会、京都腎臓病患者協議会、愛媛県
腎臓病患者友の会、高知県腎臓病友の会、
鳥取県腎友会、広島県腎友会、宮崎県腎
臓病患者連絡協議会、大分県南海病院腎
友会、鹿児島県腎臓病患者連絡協議会、
沖縄県腎臓病患者友の会

代々木病院腎友会、東京共済病院透析
室、一ツ橋診療所、調布病院

腎研究会

ベージェット病友の会、障害者の生活
と権利を守る全国連絡協議会、東京難病
団体連絡協議会、社団法人・東京進行性
筋萎縮症協会

武富正治、原島順、斉藤正、米岩政雄、
趙鏞寿、斉藤一雄、月田修次、今正一
株式会社奥野、あおい印刷

東京都の委託事業として 第一回腎臓病医療相談会開かれる

昨年九月十九日(日)、新宿区市ヶ谷のつしよ会館において、東京都難病団体連絡協議会(略称・東難連)主催、(財)腎研究会後援、(社)東京都医療社会事業協会、東腎協の協力により第一回腎臓病医療相談会が開かれました。これは東京都の委託事業の一つとして開かれたものです。

この医療相談は、都内に在住の慢性腎臓病患者を対象としたもので、事前に電話で申し込まれた人が相談できるという形式をとりました。

相談会は、東京医科歯科大附属病院の中川先生はじめ七名の医師、東京都医療社会事業協会の内藤さん他十名のケースワーカーの熱心な協力で、二十九名の患者、家族が相談を受けました。

「三時間待って三分診療」といわれる現在にあって、一人の患者さんが一時間以上もこまごまと相談できたりして、参加された患者、家族の方も満足そうな顔をして帰ってゆきました。

それでは、実際どのような内容だったのか、知りたい人も多いと思いますのでその一部を再現してみましよう。
まず、会場に入るとケースワーカーの

人が患者、家族にいろいろ質問をし、相談票に記入していきます。それが終わつてから、ケースワーカーが患者、家族と一緒に先生のところへ行つて、本格的な病気の話しをするというもので、医療機関を必要とする場合には紹介もしていただきます。

では、ある患者さんの相談内容をそつと聞いてみました。

△ケースワーカーとの一問一答▽

— 今までの病歴は

「昭和四十二年頃、胃が痛くなりまして。最初のうちは胃だけだったので食事をすれば治りましたが、夏頃になって、

はき気がしたりして表も歩けなくなつてしまつた。 — 中略 —

四十七年、小平市にあるS病院で人間ドックを受け腎臓結石があり手術。結石は三個あつたが二個しかとれなかつた。手術して両方の腎臓を痛めたが、その後胃が痛くなるようなことはなくなりました。

今年の六月より朝鮮人参(か粒状のもの)を服用し、現在は具合がよく、医者にはみてもらつていません」

— どんなお仕事を

「ハイヤーの運転手をしています。睡眠を充分とれば大丈夫です」

— 医療上の上で困っていることは

「今のところ、特にありません」

— お仕事はどの程度

「普通にやっています」

— お食事は

「普通の食事です」

— 特に先生にお聞きしたいことは

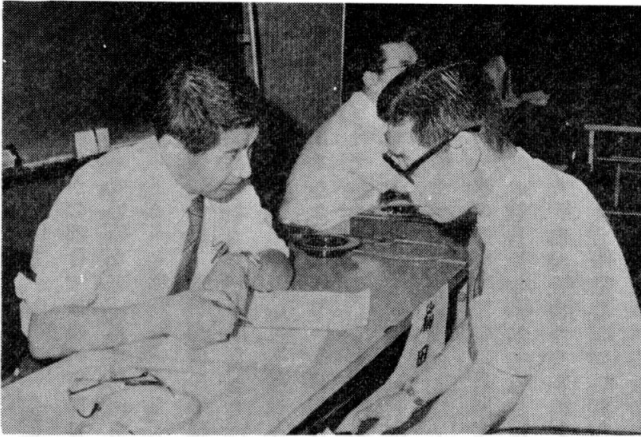
「ありません」

*この患者さんは、手術してから、その後、会社の指定医であるK病院に四十九年八月〜五十年二月頃まで通院し、診

断は同じで結石の残りの一個特にとらなくともいいのでは：と言われたが心配でとこの日やってきたそうです。

△医師との一問一答の要約▽

（患者さんから念を入れていろいろ聞いていた都立大久保病院の稲田先生は）



患者さんにわかりやすく説明する稲田先生

「手術直前に血尿がでて、四十二年頃には胃が痛んだ。——この人は馬蹄腎のためではなかったでしょう。馬蹄腎というのは右の腎臓と左の腎臓がくっついていて生まれつきの奇型。結核を起こしやすい、石がたまりやすいという性質を持つている。互いの腎臓を離さない手術した後も石ができる可能性があり、また石が大きくなることもあります。」

その後、レントゲンをとっても石は変わりなく、またみづからなような石なら、結石に関しては心配ないでしょう。

尿道が痛く、夜四、五回起き、尿にごっているということですから、今必要なことは、尿を調べどんな菌がでているのか、また片方の腎臓がなぜ悪いのかを調べることで、膀胱、尿道炎なのかも調べてみることですね」

＊手術をしてから右の腎臓の働きが悪い。仕事（運転手）をしている時尿道が痛い——と言っていたこの患者さんのモヤモヤは、この日の相談会で少しは晴れたものと思います。

第二回代表者会議 活発な意見が続出



昨年十月十七日、第二回代表者会議が障害者福祉会館で開かれました。会議には東腎協役員を含め十七名が参加し、活発な論議が展開されました。

この代表者会議というのは、各病院腎友会の実状を主に話し合い、自由に意見を述べあい、交流を深めて行こうという目的で今年度から企画された会議です。

この日出された主な意見は、

- 一、透析病院アンケート（代表者が記入する）を実施したら
- 二、透析患者のモラルについて
- 三、東腎協会費などについて

四、透析患者の社会復帰について
などがありました。

一、アンケートについて

もし患者が何かの都合で他の病院に移らなければならぬ時など、患者は何も知らなかったらどこへも移れないから、

透析病院の設備（台数、透析機械の機種、透析人数）などわかっていたほうがよいので、それを東腎協で調査してみたらという意見が出ましたが、いろいろ話し合った結果、今それをやらなくてもということになりました。

二、透析患者のモラルについて

透析の日から次の透析までの二日間で五Kg増える人がいて、本人はケロリとしていて、寿命が半年や一年減ってもかわないと言っている。他の人はこれを見て「ガマンする方が損」と思ってしまうし、新しく透析に入った人はそれを見習ってしまおう。

そうするとこのグループと他の曜日に透析をするグループとははなはだ差が開いてしまつて、病院でも患者会でなんとかして欲しいと要望してきている。これはT病院患者会の人の発言です。

透析を受けている皆さんだったら、どうすればよいと思いますか。

三、東腎協会費などについて

機関誌「東腎協」にはなぜ定価がついているのか、また実際その価格（百円）でどこかに売っているのかという質問がありました。

これは、前の機関誌に書いてありますように身体障害者団体定期刊行物協会に加盟していますので、紙面構成上の約束事の一つとして記入されています。

また、総会の時の会計報告にはなぜ人数が記入されていないのはなぜか、などの質問も寄せられました。

四、透析患者の社会復帰について

今まで完全夜間透析をしていたが、担当の医師が横浜の方へ行つてしまい、今度くる医師は、夜間透析は無理（患者が働き過ぎになる）と言っている。他の病院に比べヘマトは低いが、みんな充実感を持つて生活しているが……。

ほんとうは昼間透析と夜間透析どちらがよいのでしょうか、という意見。

「一日おきに休んで就職できるか」という壁があつて身体障害者雇用促進法が

あるにもかかわらず、その門戸は閉ざされているのが現状だが、患者は社会復帰を望んでいるのか。金をもらうことは考へるが、働く気のあるのは一部のようない気もする。そういうことにしなればぶつかるのだが、という人もあります。

社会復帰は患者にとって大きな問題です。私たちが声を大にして、「私たちに働ける職場を！」という運動をさらにこれからも盛りあげてゆきましょう。



東難連ニュース

東京難病団体連絡協議会（略称・東難連、会長 平沢三吾）は、十一団体（会員数約五千五百人）によつて構成され、難病患者・家族の生活と医療体制の充実、向上のための陳情、請願活動や東京都からの委託事業（各種難病の相談医療検診事業）を実施しております。

とりわけ、医療検診（相談）では、ラジオ、テレビ等により広く都民に呼びかけ今年度はすでに七回開催し、受診者から大変好評を得ています。

陳情活動では、八月十九日、清水衛生局長に面談し「昭和五十二年予算案に係る」次の諸点を要望いたしました。

一、専門医療の研究、促進をして下さい。
二、都立病院の難病医療窓口を拡充して下さい。

三、差額ベッド料を軽減、解消し、難病ベッドを増設して下さい。

四、医療手当、付添看護料を助成して下さい。

です。

五、医療費公費負担の対象疾病を拡大して下さい。

六、訪問医療看護制度を確立、推進して下さい。

七、委託事業費を大巾に増額して下さい。

また、十月十四日には、前記七項目の他に「都政全般について」の要望事項

（①難病患者の社会復帰促進、②単身の難病患者障害者の都営住宅入居資格について）を付記した要望書を美濃部都知事に提出しさらに、都議会各党にも、同様の要望書を提出し懇談しました。

十月 八日 都議会公明党

十月十三日 都議会自由民主党

十月十四日 日本共産党都議団

十月十八日 民社党都議団

十月二十一日 日本社会党都議団

今回の都議会各党への要請行動には、延べ三十九名が参加しました。

関東ブロック会議

東京で開催

全腎協に加入している関東地区の茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、山梨、神奈川、東京の八都県の組織代表者（複数）による「第二回関東ブロック会議」が、十一月七日（日）、港勤労福祉会館二階会議室で、上田会長（オブザーバー参加）のもとに開催され、東腎協からは、宝生会長、一ノ清副会長、平沢副会長、山崎幹事が参加しました。

前回（二月二十九日）参加されなかった埼玉県腎友会の代表者（二名）も参加し、十九名の方々が活動報告を中心に体験交流を行ない、有意義な一日を過ぎました。

会議は、東腎協平沢副会長の司令で、まず、自己紹介から始まり、続いて各都県の活動報告に入りました。

①茨城県腎友会

五月十六日に第五回総会を開催、新会長に佐川尚夫氏（入江支部）を選出、会



報「ひたち」第四号を発行。現在の会員数は、一七〇余名（六支部）である。

②群馬県腎友会

会報「ひかり」第三号を発行、五月二十六日に県庁へ陳情、六月二十七日、第四回総会を開催、九月末に県議会に請願を行なう。十月三十一日には、草津のグリーンパークへ一泊旅行を実施した。

③栃木県腎友会

五月二日、第二回総会（参加四〇名）九月十五日に「腎友会情報」第五号発行。日常活動は栃木県難連と共同行動。会員数は一五六名（六支部）である。

④千葉県腎友会

七月十八日、第六回総会開催。北総支部が鴨川へ、京葉支部は筑波山へ旅行を行なった。県内の腎臓病による身障手帳一級の者は、四二〇余名。三、四級の者は一〇余名であるが、現在の会員数は、三百余名である。

⑤埼玉県腎友会

九月一日、会報「埼腎友」第八号発行。九月十九日に第五回総会を開催、会員数は、二四〇余名である。

⑥山梨県腎友会

五月二十三日、第五回総会開催。四月には「お花見ハイキング」を行ない、四〇余名が参加した。九月にも旅行を行なった。会報「〇〇〇」第十号を発行した。

⑦神奈川県腎協

九月二十六日には結成大会を行なった。会員数は、二四〇余名だが、二月に県内の会員実態調査を実施する予定。

⑧東腎協省略

以上の活動報告終了後、昼食休憩。午後から体験交流をかねた懇談会に入り、①更生医療指定医療機関の認可条件が厳しい、②透析医療内容の格差が依然としてある、③透析医療費の無料化に対する誤解が多い——保険が変わっても手続きを忘れる者がいる、④老令年金受給者の重度障害者には障害者加算が必要、⑤障害年金の現況届に診断書の添付の廃止、⑥腎移植成功者の障害年金は停止期間経過後の悪化した場合も資格認定が必要、等の問題点について熱心に懇談しました。最後に、次回（第三回関東ブロック会議）は、五十二年十一月に、神奈川県腎協が主催し、会場を東腎協が確保することを確認して散会しました。

仲ゆかり大づち



「加入申込用紙」を送って下さい

八王子市

加藤 次夫

拝啓、日増しに寒さがきびしくなってきました今日ですが、いかがお過ごしでしょうか。

突然の便よりですが、私は立川市にある立川クリニックにて透析を受けているものです。先月、私共も会を結成しました。それで上部組織に加盟しようと言いましたが、金の問題や内容が分からない

ので加盟については見合せたわけです。でも有志として入りたいと言う人がおられますので、お手数ですが加入申込用紙（十枚位）や説明書等送っていただけませんか。

よろしく願います。

医者には患者の疑問に 答えてくれないのか

ニーレ友の会

風間 尚子

この度、転居により病院を変りましたので、今まで自分の個々の症状について不安や疑問をいだいていた点を色々尋ねて納得のいく返事が欲しいものと思いつながら、新しい病院に行きましたが、その診察の結果は、今までの病院以上にそつけないもので正直がっかりさせられ、また、ここに自分の健康を預けていいのかわりか不安にもなりました。

初診ですので、胸のレントゲンから諸々の検査を受け、高い検査代を払い、散々待たされて（それは内科ですでもう

慣れてはいますが）「まあ、あまり心配ないでしょう。心電図に心臓肥大の傾向が出ていますが、レントゲンは正常です。尿酸、カリウム、ナトリウムが高いのでそれだけ再検査します」との事。血圧も「下は高いですが、上が一五〇以内です。様子を見ましょう」の事。薬は出ませんでした。今までずっと降圧剤を欠かした事はありませんでしたので、不安に耐えきれず、後日、別の先生の日

にまた診察に行き、検査の結果を聞いた処、「正常と異常の境目について、年齢的には相当高く、血圧は腎性です。降圧剤は飲んだ方がいいでしょう」との事。やと薬をもらって帰りました。

同じ検査結果でも、先生の説明によって随分差異があり、最初の先生の話だと「ああ私はもう治つたのだからか。検査は正常だというし」と錯覚をいだかせるようなものでした。ただ私は治つたと思うには、余りにも今まで色々な事を経験してきていますので、疑問をいだいていたのです。

その後、尿酸、カリウム、ナトリウムの再検査の結果を聞きに行きましたが、

「前より下がりましたね」。これだけで、下がっても尚、正常値より高いのか、またクレアチニンや尿素窒素、コレステロール等どの位の値なのか聞いてみました。何がいくらという事は、医者が知っていればいいのであって、あなたには必要ない事です。私が検査の結果を見て総合判断をしますから」と切り口上で言われ、私は返す言葉もなく頭を下げて診察室を出てきました。

沢山の患者を次々とみて病名や検査、投薬の指示を与え、先生も大変だろう事は常々思っています。しかし、医学知識を持たぬ私にとっては、医者だけが、数々の疑問に答えてくれるもの。これ以上腎臓を悪くしたくない機能を維持してゆきたいと思えばこそ、何時間もかけてむずがる子供をあやしながら順番を待ち、高いお金を払って病院通いをしているものを、あまりにもそつけない返答に思えました。

さまざまな腎臓病に関する本を読み、少しでも知識を持ちたいと努力している今、自分の検査結果を知りたいと思うのは当然ではないでしょうか。昨日、今日

腎臓を悪くしたのではない、十年以上繰り返してきた病気なのです。

この医者に対して私は信頼出来なくなりました。しかし、子供を幼稚園に送り届けてから今までの病院に通う事も時間的に出来ません。幼稚園から帰ってくるまでに、下の子をつれての病院通いは遠くまで行く事は出来ないので。また、どこの医者が本当に信頼出来るのか、それも分りません。小さな開業医でもいい真剣に私の疑問に答え、病気と闘う私の姿勢に協力してくれる医者でさえあれば、皆さんは、このような事にぶつかつた事はないでしょうか。

(世田谷区在住)

私達の運動にご理解を

東腎協会長

宝生 和男

最近私たちは、腎臓病患者の医療と生活を改善するために署名と募集運動を行いました。

現在集計中ですが、届けられた署名用紙を一枚宛拜見していますと年一回会員

が直接運動に参加するとはいえ、暑い盛りに御苦勞をかけて感謝にたえません。

また、運動の主旨がよく説明されないためかいくつかの批判をいただいたのも事実です。

その一つに、ある病院関係者に署名をお願いしたら、あなた方はすでに医療が無料化されているのに、この上また何を要求するのですか。その分だけ私共の税金が高くなりますと言つたそうです。

もちろん冗談でしょうが私達の願いが届かず誠に残念でした。この請願項目には、すでに私達にはなんの恩恵もない事柄が含まれています。たとえば、『早期発見、早期治療体制の確立』を叫び続けるのは、長い間腎臓病に苦しめられてきた私達が再び家族の中から、都民の中から出したくないとの悲願がこめられているからです。

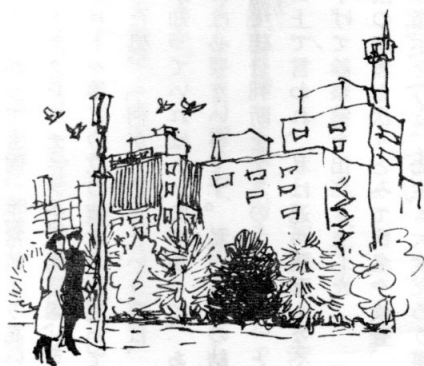
そして、全乳児、小中学生の検尿制度の導入を提唱してきた訳であつて、あるいはその方のお子さんかお孫さんがすでお受けになつていないのではないのでしょうか。

また、年金の改善等についても私達の

要求を通すだけではなく一般の受給者も一緒に引上げています。

今若くて、年金など関係ない方々もやがて老令社会を迎え、現実には年金を手にした時、その金額の中に私達の努力が何割が含まれている事実を知つて欲しい。

このように、全て自分本位にやっているのでなく、大衆の福祉や社会保障を求め、その枠のなかで生存してほしいと願っています。



音楽サークルの誘い



目黒駅前クリニク

宮内 孝昌

看護婦、透析士、透析患者の皆様お元気ですか。私共、慢性腎不全に悩む者は将来に希望がもてず、仕事や生活の面で消極的になり自己の殻に閉じ込められがちになります。

歌は誰れでも歌えるもの、歌を通してまた歌の間にお互いに明日の希望を語る音楽サークルを作ろうではありませんか。私は慢性腎不全（透析）患者であり、透析士として働き、全腎協、東腎協の仕事もお手伝いさせていただこうと思ってる者です。

社会保障という観点からの私共の運動は一応、医療費全額国庫補助という形で

実現されました。今後、私共の運動は、精神面において健康人と同等もしくはそれ以上に充実すること、及び半永久的に透析治療を継続するということなく、腎不全を治そうとするアクティブな各方面への働きかけが重要ではないかと思えます。

私は、このような患者（私を含めて）の切なる願いを音楽を通して達成してゆこうと考えております。幸いにして東京芸大卒の高山信子先生（大学講師、ソプラノ）、河野晴光先生（大学講師、メゾソプラノ）、増山久美子先生（大学講師、ソプラノ）、三方が私共の為に無料奉仕していただけることになりました。希望者は左記住所宛、御連絡下さい。

メンバーが集まれば、役員会を開催し具体的スケジュールをたてたいと思えます。

品川区上大崎2-15-17

目黒駅前ビル6F

目黒駅前クリニク

宮内孝昌

（電話）

△編集部よりお願い▽

「仲間からのたより」欄の投稿を広く会員の皆さんから募集していますので、気軽に日頃思っていること、闘病の経験などを事務局までお送り下さい。





渡辺淳一・著

「十五歳の失踪」

十五歳の俊次は、その日学校を午前中で早退してM大病院に行き透析を受けて戻るはずだったが、病院には行かず失踪してしまった。

物語は、この人工腎臓の少年俊次が失踪してから展開される。この小説の背景は今から六、七年前だろうと思うが、この頃はまだ全腎協もできていなくて、透析者は「金の切れ目が命の切れ目」といわれていた。ある人は、自分の家を売ったり、財産をみな投げうってやっと透析を続け金がなくなってしまう時には命の方も切れてしまった——そういう厳しい時期だった。

当然、マスコミでも大きく取り上げられ、また私たちが全腎協を結成すると同時に、運動を盛り上げていった成果もあってか、その後透析患者の医療費、社会福祉は少しずつ前進して今日に至っている。

この物語の俊次は、健康保険の家族で五割負担、一カ月十回治療で十五万円の治療費を払わなければならない。両親は細々とたくわえてきた貯金もほんのわずかになり、退職金の前借りが家を売るより他に方法がなくなっていた。少年はそのことを知っていた。

今よりもまだ透析技術の劣っていたこの頃、病気との格闘と高額な医療費の両方で頭の中はいっぱいになっていたにちがいない。俊次が行方不明になり、周囲の者はそのことを痛感する。

あと数時間遅かったらというところで俊次は、再び人工腎臓にかかり小説は終わるのだが、このできごとを通して、いかに一人の人間の生命が大事かがよく理解できる。

その人間がどんな状態にあっても、生きていくことを最大限保障されねばなら

ないと思う。

景気がよかった頃は、福祉、福祉というけれど、いったん不景気になると福祉みなおし論が叫ばれ、福祉後退となってハネ返ってくる昨今、透析患者は、「もやなんの心配もいらなくなった」などという声もたまに聞くけれど、はたしてそうだろうか。

また、最近の透析患者は食事管理などよくない：などという声も聞く。自ら思うっている人は、ぜひこの本を一読してみたらいかがでしょうか。

東腎協も今年で五周年を迎えます。私たちの運動をこれを機会にもっと発展させるためにも、運動の出发点となったこの物語のころのことをもう一度振り返ってみようではありませんか。

「十五歳の失踪」(渡辺淳一・著)は講談社より出版されています。

(S・K記)



全腎協国会請願署名カンパ金バ切集計

S51.12.20

腎友会名	署名数	募金額	腎友会名	署名数	募金額
飯田橋クリニックス腎友会	15名 221	2,400円 3,600	東京共済病院腎友会	72名	3,000円
池之端腎友会	221	3,600	東京女子医分院河童会		
荏原クリニックス腎友会	315	58,223	豊島中央病院豊生会	190	28,800
大田病院腎友会			ニール友の会	2,163	183,515
織本病院腎友会	461	27,200	西新井病院腎センター友の会	397	34,400
北病院腎友会	72	11,700	池袋黎明会		
杏林大学病院腎友会	230	5,630	フエニックス会	539	51,000
厚生年金病院腎友会	141	20,210	東村山康腎会	770	66,573
国立王子人工腎臓友の会	445	33,300	四谷クリニックス聖友クラブ	97	21,200
こぶし会	336	25,170	四谷三和クリニックス会		
幸クリニックス竹馬会	30	2,400	代々木病院腎友会	1,011	51,090
三軒茶屋腎友会	993	35,100	両国クリニックス会	105	9,200
城南クリニックス腎友会	179	28,000	新・新宿クリニックス	55	11,300
昭和大病院百合の会	58	14,700	日本医大病院腎友会	102	5,000
人工腎臓虎の門会			大久保腎友会	537	35,640
月島サマリヤ腎友会	90	1,500	個人会	591	45,039
帝京大学病院腎友会	41	2,845	都職	783	44,894
東一腎友会			小計	7,412	590,651
小計	3,627	271,978	合計	11,039	862,629

アンテナ

☆ 個人会員入会者 (8月～12月)

△八 月▽

本郷元秀

△九 月▽

杉本文雄、宮内孝昌、川上信子、鏡洋

子、木村秀夫、志村實三、下田洋一、小

山仙蔵

△十 月▽

阿部ちよ、山北貴義、田口満、和田昭

△十一月▽

笹川浩、斉藤正

△十二月▽

久保谷恵子、近藤美紀子

☆ 退 会 者

11月16日、秋本長次郎 (息子さん死亡につき)

☆ 食塩無添加・減塩肉缶詰

株式会社奥野より販売

同社発行のチラシによると「食塩無添

加・減塩肉缶詰は、一般市販の肉缶詰類とは全く別で、食塩を全く添加していないか、ほんの少量、食塩が含まれている治療食品で、医師から食塩制限食が必要だといわれた方々のために、特別に技術加工した製品」ということです。

東腎協事務局では、同社の製品を扱ってはいませんので、ぜひ試食してみたいという方は、同社へ問い合わせ下さい。

東京都千代田区麹町4-7-6

(麹町ロイヤルビル)

☎03(二六一)四二〇六

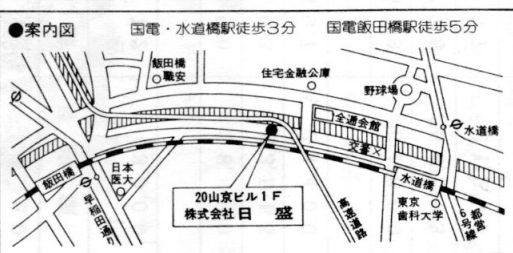
△ 編集後記 ▽

今年初日(はつひ)を神奈川県丹沢山(一五六七M)から望むことができました。これもひとえに私の腎臓がまだ正常に近い働きを示しているゆえに、なせる業ではないかと思っています。初日に照され赤く染まる富士をみて、今年も頑張ろうと決意しました。

(加藤)

* 食事療法を必要とするあなたへ.....

治療食品専門店がオープンしました!



- 治療食の指導をいたします。医師の栄養指示票をお持ちください。経験豊富な管理栄養士がご相談に応じ適切な治療食のご指導をいたします。
- 治療食品・健康食品の販売もいたします。

株式会社 日盛

東京都千代田区飯田橋3-11-5 / 20山京ビル101

☎(03)262-8861(代)

昭和五十一年二月二十五日第三種
SSKO通巻第八十五号
昭和五十一年十二月三十一日発行

物認可

発行所

身体
者団体定期刊行物協会
東京世田谷区砧八二一三
領価百円